

ボランティアの養成・研修事業

「ボランティア養成セミナー」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子供たちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術について研修する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和4年5月28日(土)～5月29日(日)【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上

②参加人数 44名(応募45名 キャンセル1名)

③参加者の内訳 高校生13名、大学生19名、社会人12名(職員4名)

3. 企画運営のポイント

(1) ボランティア活動を行う上で、必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるように計画した。

(2) 法人ボランティアとして活動してきた先輩ボランティアが、自らの体験談を発表したり、プログラムの一部を担ったりすることで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせるとともに、より身近なものとしてとらえられるようにした。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策として、受付時・就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図り、安心して研修に取り組める環境とした。

4. 日程

	午前	午後	夜
5月28日 (土)	開会行事 演習「ボランティア活動の技術」 (アイスブレイクの実際) 講師：国立赤城青少年交流の家 竹内 正則 法人ボランティア 吉池 涼香 根岸 咲代子 講義「青少年教育施設の現状と運営」 講師：国立赤城青少年交流の家次長 齊藤 裕徳	講義「青少年教育」 講師：共愛学園前橋国際大学 教授 奥田 雄一郎 氏 演習「ボランティア活動の技術」 (野外炊事指導) 講師：国立赤城青少年交流の家職員 竹内 正則・福岡 公平	説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」 「赤城のボランティア活動」 講師：法人ボランティア 吉池 涼香 越澤 舞季 根岸 咲代子
5月29日 (日)	講義「救命救急法」 講師：前橋市消防局北消防署 白川分署 署員 講義「ボランティア活動の意義」 講師：文教大学 准教授 青山 鉄兵 氏	説明「法人ボランティア登録制度」 講師：国立赤城青少年交流の家職員 竹内 正則・福岡 公平	

5. 主な活動内容



アイスブレイクの実際



青少年教育施設の現状と運営



青少年教育



赤城のボランティア活動



救命救急法



ボランティア活動の意義

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 41名 (93%)、やや満足 3名 (7%)

(2) 参加者の声

- ・一気に自分の世界が広がった気がした。
- ・参加したのは受動的な動機であったが、2日間を通じて、参加してよかったと思えるようになった。
- ・2日間で新しいことに挑戦することの楽しさを実感した。
- ・実際にボランティア活動をするを考えて学ぶことは新鮮だった。
- ・多くの人と同じ目的をもって学ぶ機会がもててよかった。

(3) 成果

- ①定員を超える応募があり、高校生、大学生、社会人の幅広い世代にボランティアとしての必要な知識や技術について研修する機会を提供することが出来た。
- ②例年より法人ボランティアが活躍する機会を増やしたことで、参加した法人ボランティアの意識が高まるとともに、参加者がボランティアを身近に感じる事が出来た。

(4) 課題

- ①感染症対策について、安心と感ずられるレベルに個人差があるので、こちらの対策を確実に伝え、不安のある参加者がいれば個別に対応することが必要であった。
- ②群馬県内の学生の参加をより増やしていくために、コロナ禍ではあるが、来年度に向けて、早期から県内大学等と連携を図りながら広報計画を立てていきたい。

担当：竹内 正則、福岡 公平